

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会派名 (参加者)	創生会 伊藤俊喜 石田健太
視察・研修名	第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌
視察・研修の 目的	全国の市議会議員が一堂に会する研究フォーラムにおいて、政策課題等についての情報交換や意見交換を行うため
目 時	令和7年8月27日（水）、28日（木）
視察研修の 概 要	<p>全国市議会議長会 主催 第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌 札幌文化芸術劇場 hitaru (札幌市中央区北1条西1丁目札幌市民交流プラザ4F) ※全国の市議会議長並びに議員 約2500人参加</p> <p>第1日</p> <p>●基調講演 伊吹文明元衆議院議長（演題／主権を預かる誇りと責任）</p> <p>●パネルディスカッション テーマ「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足を考える」 コーディネーター：辻陽近畿大学法学部教授 パネリスト：牧原出東京大学教授 白石洋一読売新聞東京本社政治部次長 山下節子山口県宇部市議会議長 長内直也札幌市議会議長</p> <p>地方議員のなり手不足が市議会でも進んでおり、町村と同様の規模の市では次の選挙で3分の1が無投票になるといわれている。その課題解決のためには議会・議員活動の情報発信により市民に関心をもってもらうことが重要であり、パネリストからは各議会における取組等について発表がなされた。</p> <p>第2日</p> <p>●課題討議 テーマ「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」 コーディネーター：牧瀬稔関東学院大学法学部地域創生学科教授 事例報告者：今井康善長野県岡谷市議会前議長 平神純子鹿児島県南さつま市議会議員 中野進石川県白山市議会議長</p> <p>各議会・議員の具体的な取り組み内容や成果・課題の紹介と解決に向けた提言が行われた。特に前回の市議会議員選挙で全国唯一の定数割れとなった長野県岡谷市の今井前議長からは市民との意見交換やシンポジウム開催と、「対話」を大事にしている活動報告が行われ、本市での参考になるものが多くあった。</p>

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会派名 (参加者)	創生会 (水島美喜子、多比良和伸、山下克己、伊藤俊喜、石田健太)
視察・研修名	(1) 氷見市「能登半島地震における氷見市の被災状況と復旧・復興の取組み」 (2) かほく市「人口増加に向けた移住・定住促進施策」
視察・研修の 目的	事業実施に至る背景・経緯、概要、効果、課題等について
目 時	令和7年11月11日(火)～13日(木) ※行政視察=11月12日・午前10時/午後2時
視察研修の 概要	<p>(1) 氷見市「能登半島地震における氷見市の被災状況と復旧・復興の取組み」 【日時】 12日(水) 10:00～12:00 【担当】 氷見市議会 副議長 萬谷 大作 氏 次長補佐 山崎 雅郎 氏 地域振興課 主査 舛田 建治 氏</p> <p>①経緯 令和6年1月1日(16時10分)、能登半島及びその周辺に最大震度7の地震が発生し市内各所で建造物やライフライン等の被害が発生。 地震災害による被害の規模や復旧・復興等の取組み、そして備えや対策について確認</p> <p>②内容(被害状況)及び対策 ・家屋の倒壊・半壊、土地の隆起や液状化が発生。水道の全面復旧には3週間を要す。 ・現在も復旧工事を進行中 ・災害を教訓に「情報伝達」「避難所の迅速な開設」「避難所の環境改善」「防災士の育成」を柱に防災対策の見直しを実施 ・市議会で「災害対応指針」を策定</p> <p>③効果 災害に備える体制強化や訓練の重要性を含む意識の高揚が図られた。</p> <p>④課題 現時点で災害対策に関わる問題等はなし。ただ、災害発生時における情報伝達や迅速な避難所の開設は重要な課題であると認識している。</p> <p>⑤その他 ・普段からの防災意識の醸成や地域コミュニティの確立が災害発生時はとても有効になってくる。 ・災害の発生を想定し「〇〇を持って、〇〇のルートを通って、〇〇に非難する」というような行動パターンを持つことも重要</p> <p>※ 詳細は別添資料のとおり</p>

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと

視察研修の  
概 要

(2) かほく市「人口増加に向けた移住・定住促進施策」

【日時】 11日(水) 14:00~16:00

【担当】 かほく市議会 議長 金子 猛 氏  
副議長 野田 稔彦 氏  
事務局長 西盛 豊樹 氏  
地域創生課 課長 新井 三盛 氏  
係長 吉田 奈央 氏

①経緯

近年は人口減少に伴い都市部を除く各市町村で人口規模の縮小が顕著にある。生産人口の確保が難しくなっている中、出生数や若年層を中心とした人口が増加傾向にある状況を調査

②内容及び対策

- ・かほく市の行政面積は砂川市よりやや小さい64.36㎢で、人口は約36,000人。人口及び世帯数はおよそ20年前から微増傾向が続いている。
- ・人口確保対策として「出生数」に着目。
- ・他市町村で見られる子育て支援をおよそ実施する一方で、若者をターゲットに「とりあえず住んでもらう」「結婚してもらおう」「子どもを産んでもらおう」「家を建ててもらおう」というようなライフステージに応じたトータル支援を展開。
- ・本市にはないものとして、具体的には新婚世帯の家賃補助(2年間・子どもを出産した場合は1年延長)、転入者への家賃支援、奨学金返還支援、子ども屋内運動施設の設置がある。

③効果

- ・若年層の移住が多くみられるようになり、子どもの数がV字回復した。

④課題

現時点では特筆すべき課題は見受けられない。

⑤その他

- ・まちの魅力や支援制度などを、テレビCMをはじめ、公式Instagramの運用、YouTubeの活用など情報発信を積極的に展開している
- ・かほく市では「職員提案制度」を実施し、若手職員から意見を吸い上げる正式なシステムが確立
- ・地域におけるワーキンググループの実施などを行い、若年層が「こんなまちになって欲しい」という想いを情報として収集

※ 詳細は別添資料のとおり

以 上

## 研修の様子

(1) 氷見市



(2) かほく市



○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

<p>会 派 名 (参加者)</p>	<p>創生会 (山下克己、伊藤俊喜、石田健太)</p>
<p>視察・研修名</p>	<p>地方議員研究会主催 「病院関連質問で地域の医療を守る特別研修～病院経営改革から病院経営強化～」並びに「人口減少・少子化に備える地方の施策～国のこども子育て施策をおさえよう」</p>
<p>視察・研修の 目 的</p>	<p>自治体病院の経営やこども子育て政策の課題等を知り、今後の取組みへの助言をいただくことで、今後の当市における市政の参考にするとともに、調査研究、情報収集を行い、当市の施策を進めるための議員活動や個々の能力の向上に資するため。</p>
<p>目 時</p>	<p>令和8年2月10日（火）～2月11日（水）</p>
<p>視 察 研 修 の 概 要</p>	<p>2月10日（火） 病院関連質問で地域の医療を守る特別研修 テーマ：「病院経営改革から病院経営強化～」 講 師：城西大学経営学部 教授 伊関 友伸氏 内 容：どうすれば自治体病院の経営が良くなるかについて アフターコロナの時代の自治体病院経営に必要な視点について ※時代の変化に対応するため、地域存続のためには常識を疑うことが必要であることを、人材確保、入院基本料、病棟の活用、収入の増加、支出の減少、資格、研修など様々な角度から講義いただきました。</p> <p>2月11日（水） 人口減少・少子化に備える地方の施策研修 テーマ：「国のこども子育て施策をおさえよう」 講 師：元交野市議会議員、元交野市財政課職員 黒瀬 雄大氏 内 容：これまでの国の子育て施策について 子ども家庭庁ができた背景と役割について 子ども未来戦略の要点について ※まず戦後の日本の子育て施策の変遷を振り返り、次に2023年4月にできた子ども家庭庁が発足した背景、縦割り行政、少子化、子どもの貧困、児童虐待、ヤングケアラーなどの課題について整理し、最後にこども未来戦略の理念、取組みについて講義いただきました。</p> <p>どちらの講義も現在の課題が整理され、今後の方向性について示唆に富んだ内容で、今後の議員活動にとって大変有意義なものでした。</p>

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと